

平成27年度施設関係者評価報告書

学校法人 増田学園
認定こども園今川幼稚園

学校法人増田学園 認定こども園今川幼稚園は、平成27年度より「子ども・子育て支援新制度」のもと、0歳児から5歳児までの教育・保育を行う幼保連携型認定こども園となりました。今後は、社会のニーズに応えられる施設として、さらなる園児への教育・保育の質の保証及び向上を目指し、教職員一同邁進して参る所存でございます。

さて、このたび、教育・保育理念、教育・保育目的等をはじめとする教育・保育及び認定こども園運営について自己点検・自己評価を実施し、また施設関係者評価委員会を設置し、当園に関連する保護者・卒園生の方々や教育関係者の皆様より当園の学校教育・保育及び認定こども園運営に対し、幅広かつ的確なご意見、ご指導を賜り「平成27年度 施設関係者評価報告書」を作成し、当園のホームページに公表いたしました。

頂戴いたしましたご意見等につきましても「平成27年度 施設関係者評価報告書」としてご報告させていただきます。

今後とも、認定こども園となりました「認定こども園今川幼稚園」をよろしくお願い致します。

平成28年7月1日
学校法人増田学園 認定こども園今川幼稚園
園長 増田 純子

平成27年度施設関係者評価報告書概要

1. 認定こども園教育・保育目標

当園では【日々の園生活を通して確かな「生きる力」をつける】を教育・保育目標に掲げ、今までの3～5歳の3年間【教育】だけではなく、0～5歳の6年間【教育・保育】を通して、多種多様な文化・社会で生き抜く土台作りをおこなう。

- ① 健康で丈夫な体づくり
- ② 自分のことは自分で出来るようになる
- ③ 自分で考えて行動していく力を身につける
- ④ コミュニケーション力を身につける
- ⑤ 音楽・造形・知育・英語・体育などを通して豊かな感性を育てる。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

- ① 0～5歳児の交流を通して、子どもたち同士で学びを見つけ、教えあいやさしさやコミュニケーション力を育む
- ② インクルーシブ教育を柱に、個人に対応できるよう全教員が教育・保育の向上に努める。
- ③ 環境整備、特に保育部分の環境整備に取り組む。
- ④ 認定こども園に移行したことで、0～2歳児の保育の確立を目指す。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	理由
① 0～5歳児の交流を通して、子どもたち同士で学びを見つけ、教えあいやさしさやコミュニケーション力を育む。	5	認定こども園として初年度ではあったが、2歳児教室の実績もあったため、異年齢の交流はスムーズに行うことが出来た。特に5歳児が0、1歳児に向き合うことで相乗効果が生まれ、5歳児はやさしさや譲り合う心、また自分たちが低年齢児に教えてあげないといけないという責任感が育まれた。低年齢児は3歳以上児の園での生活習慣を見ることで自然と身につけることが出来た。さらなる環境作りをおこなう。
② インクルーシブ教育を柱に、個人に対応できるよう全教員が教育・保育の向上に努める。	4.5	特別支援に関わる園外研修に積極的に参加し、発達障害・知的障害などの知識を深め、園内研修も年6回おこない、教員の経験年数で教育保育の差が生じないように心掛けた。つまずきのある部分は個性と捉え、共に個性を尊重しあえるクラス運営が出来た。今後もより一層の情報共有、特別支援児への理解を深めていきたい。

③ 環境整備、特に保育部分の環境整備に取り組む。	4	今年度より幼保連携型認定こども園に移行し、2号・3号認定こどもの受け入れに伴い新たに増築棟を建設、給食室・乳児保育室・医務室を設置した。特に、乳幼児室は、開始前に数か所保育所見学をおこない、よりよい環境で子供たちが過ごせるよう努力した。開始後も様々な専門機関や専門家にアドバイスをいただき、ますますの環境作りを行っている。特に安全面には細心の注意を払っていききたい。
④ 認定こども園に移行したことで、0～2歳児の保育の確立を目指す。	4	保育教諭採用にあたり、保育園での保育経験者や子育て経験者を採用し、保育の充実を図った。幼稚園由来の保育教諭は乳幼児保育の園外研修に参加し、改めて乳幼児保育の確認をおこなった。安全性の確保等配慮できた部分もあるが、初年度ということもあり、PDCA サイクルがまだまだ不十分である。次年度はしっかりと改善していききたい。

4. 施設評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
4	幼保連携型認定こども園に移行し、1号認定こどもに加えて、2号・3号認定こどもを新たに受け入れることになり、今まで以上に教育・保育の充実について全教職員で話し合うことが出来た。特に3号の保育についてはある一定以上の目標は達成したものの、まだまだ満足のいくものではない。さらなる努力が必要である。 ハード面については、子育て支援に重点を置き、次年度に改修工事等行っていく予定である。

3. 4の評価結果の表示方法

5	十分に達成できている
4	達成できている
3	取り組めている
2	取り組めているが、十分な結果が出ていない
1	取り組めていない

5. 施設関係者委員会により評価・意見

出席委員：卒園生1名・保護者2名・評議員1名・園長・理事長（計6名）

今年度より幼保連携型認定こども園への移行ということで、最初「保育園」になってしまうのではないかと。「幼稚園」の時と同じように教育をしていただけたのか、保育料の問題はどうなるのかという不安はありましたが、園長先生をはじめ、教職員の皆様が丸となって努力してくださった結果、子どもたちや保護者にとっても素晴らしい1年になったととても感謝しております。次年度も引き続き、質の高い教育保育の提供をお願い申し上げます。という意見をいただき、自己評価についてもおおむね良好な運営がなされているとの評価をいただきました。